



## 2022JR総連春闘を職場から闘うぞ！ 第35回定期中央委員会開催

JR東海労は2月11日、感染対策を十分実施した上、名古屋市内で第35回定期中央委員会を開催しました。議長に新幹線地本の庭山中央委員を選出しました。

今委員会では、2022JR総連春闘を統一要求・統一闘争で闘うこと、また本人の同意なき54歳原則出向反対の闘いを中心に、職場で発生する問題などを全組合員で闘うことを意思統一しました。春闘では、ベア及び定期昇給6,000円と現等級経過年数による逡減撤廃、夏季手当3.5ヶ月、諸手当改善、出向者や専任社員の労働条件改善などを柱とする要求を掲げ闘うことを確認しました。

木下委員長は「2022春闘をJR総連の仲間と共に闘おう。54歳原則出向制度を悪用した組織破壊攻撃では、出向が取り消しになったり、JR本体への復帰を勝ち取った。勝利的に闘っている」と挨拶しました。

質疑では、本人の同意なき54歳原則出向反対の闘い、出向先会社との団体交渉、リニア建設反対の闘い、診断書強要中労委の闘い、コロナに対する会社の対応の問題などの発言がありました。

本橋書記長は、総括答弁で「この間の本人の同意なき54歳原則出向反対の闘いの成果を確認する。『経営状況の悪化を理由に賃上げを要求しないのは労働組合とはいえない』というJR総連の仲間の声はまさにその通り。春の闘いを通じて、組織強化・拡大を目指そう」と訴え、委員会は成功裡に終了しました。

